

草の根無償「ソソナテ市ラス・タブラス村飲料水供給計画」案件終了式

2021年11月29日、ソソナテ市において「ソソナテ市ラス・タブラス村飲料水供給計画」の案件終了式を実施しました。同終了式には、メヒア・ソソナテ市長代理およびクレスピン・ラス・タブラス村水利管理組合代表の他、当館館員が出席し、テープカットや記念植樹等を行いました。

案件実施サイトであるラス・タブラス村は、首都より西に約70kmの距離に位置し、住民は農業(胡瓜・トウモロコン栽培)および酪農業で生計を立てています。案件実施までの長い間、同村は安全で恒久的な水へのアクセスを有さず、住民の多くは生活用水を確保するために、村から約1km離れた川へ水ガメを担ぎ徒歩で移動して水汲みや洗濯等しなければならず、主に水汲みに従事する女性や子供にとって重労働となっていました。また、水質の保証されていない水の摂取により、下痢や寄生虫等の水因性疾患による健康被害が深刻化していました。

本計画は草の根・人間の安全保障無償資金協力によるもので、日本政府からの約10万7,000米ドルの支援により、上水道整備のための取水槽や貯水タンクの建設及び給配水管の設置が実現しました。本計画実施により、同村に住む223世帯1,115人名の住民が恒常的に安全な水を利用できるようになり、生活環境及び公衆衛生が向上しました。





(裨益者の声)

“本計画を実施してくれた日本の皆さまおよび日本政府に深く感謝を申し上げます。我々地域住民は約30年間安全で恒久的な水へのアクセスを望んでいましたが、これまで実現できずにいました。日本政府、市役所および地域住民の協力のおかげで我々の夢を叶えることができました。本当にありがとうございました。”

ラス・タブラス村 水利管理組合代表
カルロス・エンリケ・クレスピン氏



(裨益者の声)

“長い間生活用水を確保するため、川に水汲みに行っていましたが、本計画実施により安全な水が私の家に供給されるようになりました。日本の支援に感謝しております。”

ラス・タブラス村住民
フアナ・デ・ラ・ロサ氏